

池袋駅東口にはかつて東京丸物という百貨店があった



池袋お出かけが楽しみ

ンチを食べ、帰りがけにペコちゃん人形の頭をへなでなでくするのが常でした。電車のドアが開く度、ホームの木製看板に平仮名で記された駅名を読み上げるのも楽しみの一つ。でも、石神井公園駅だけは二歳の僕には難易度が高く、決まって「ひゃくじいこうえん」。隣り合わせた老翁に「江戸っ子だねえ」と言われ、きょとんとしている僕に祖母が解説してくれたのも懐かしい思い出です。おままごと遊びを木造都営住宅の向こう三軒両隣に暮らす年長の女の子たちとする一方、吉祥寺駅、東京駅八重洲口といった行き先を母親に書いてもらった画用紙を前にぶら下げた三輪車で、バス遊びを一人するのも大好きでした。その僕にも昭和三十四年の夏、妹が誕生します。

(作家)



たなか やすお
田中 康夫

私の

東京物語

2

全10話

東京オリンピック開催前年の小学一年生まで暮らしたのは現在の西東京市。旧北多摩郡田無町の谷戸にあった都営住宅でした。両親、母方の祖母、妹の五人家族。母親は練馬区立石神井東小学校の教諭で、三歳年下の妹が誕生するまで僕は、祖母と過ごす時間が長くなりま

す。ひばりが丘団地の出現に伴って一九五九(昭和三十四)年に、ひばりヶ丘駅と改称される前の田無町駅から西武鉄道に乗って、一緒に池袋へお出かけするのが楽しみでした。池袋PARCOの建物も、当時は東京丸物という京都が発祥の百貨店。隣接の西武百貨店を祖母と一巡すると、丸物の中二階にあった不二家レストランで、サンドイッチとフルーツポ